

# あと100日

あと100日です(11/3現在)。何までかって？中3の皆さんはおわかりですね。そう、入試です。正確にいうと公立高校入試の前期選抜までの日程です。中学校では三者面談も始まっている頃かと思えます。いよいよ受験に向けて学校側も動き出す時期です。

ここで三者面談を受ける上で少しアドバイスがあります。1つ、単願の甘い誘惑に負けないでください。例年、公立高校入試の前に私立入試があるわけですが、11月の三者面談の目的として一番大きいのが「安全校を決めること」にあります。県内の私立高校には「学力試験で合否を決める学校」と「入試相談で合否をほぼ決める学校」の2種類があります。前者に属するのは上位校10校程度で、残る大半は後者に属しています。入試相談とは...12月中旬に中学校の先生がその私立高校を受験予定の生徒の成績表を持って私立高校に向向き、1人1人の合格の可能性を相談するというものです。そこで、「この生徒は大丈夫」とか、「この生徒には入試で頑張ってもらわなくては」とか相談するわけです。相談結果の扱いは私立高校によってさまざまですがOKをもらっておくと「ほぼ合格が内定される学校」や「入試の点数に加点してくれる学校」などいずれにしても非常に有利に受験できることとなります。三者面談では生徒と先生との間に意識の差が見られることがあります。先生にとっての目標は「一人の脱落者もなく、クラス全員がどこかの高校に合格すること」です。「合格する」という意味では、先生と生徒の希望は一致しています。しかし、生徒の希望は「志望校に合格すること」ですが、先生の希望は「どこでもいいから合格すること」なので質的には違いがあります。もちろんすべての先生がそう

ではありませんが、とにかく「いかに合格しやすいか」という点を重視して中学校の先生は進路指導をしていくと思います。前出の「入試相談のある学校」をすすめるのは当然でしょう。その最たるものが私立高校の「単願」です。単願でも不合格になりうる一部上位校を除き、大半の学校では入試相談で話が通ればそこで(事実上)入試を終わらせることができます。受験するのは「その学校のみ」になります。先生にとって単願は「確実な合格」と「最小限の受験校数」の2つを同時に実現する素晴らしい制度なのです。生徒にとっても単願は非常に魅力的な「甘い誘惑」です。受験が現実のものとして見えてくるこの時期、受験生は誰も「今の実力」と「合格に必要な実力」のギャップに悩むものです。成果の見えてこない受験勉強に焦り、プレッシャーに押しつぶされそうになります。しかも、それは一朝一夕で解決するわけではなく、受験が終わるまで延々続いていくのです。単願はその全てを一瞬のうちに解消してくれる救世主として受験生のもとにやって来ます。しかし、上位校を目指す受験生にとって単願は身を滅ぼす「悪魔の誘い」です。多くの場合、単願で内定がもらえる学校は本来の志望より低いレベルの学校です。受験生は数か月間「楽をする」代わりに、自分を安売りすることになるのです。しかも、早い時期に合格が約束されてしまうので、一般入試を経て入学してくる生徒に比べて勉強量が少ないまま高校生になることとなります。入学段階からそんなハンデを背負っているようでは、高校入学後の厳しい競争を勝ち抜くことはできません。高校入学はゴールではなくスタートなのです。もっと長い目で見れば、「目標に向かって努力して成果を得る」高校受験という人生経験の場が無駄になることとなります。そんな形で高校生になってしまえば、次にやってくる大学受験や就職活動で苦労するのは目に見えて

います。(人間は学習する生き物なので、一度楽して関門を通過してしまうと、次も同じように何とかなるものだと甘く見してしまう)でも、学校の先生から単願の話が来たら、安易に飛びついてしまわないでください。「その高校に進学して、本当に満足なのか」をよく考えましょう。もちろん学校見学や説明会に参加して魅力を感じた。どうしてもその私立に行きたい！というのであればとても使える制度なのでどんどん活用してください。

もう1つ、三者面談で最も大切なことは、「自分はこの高校に行きたい」とはっきりと伝えることです。その際、先生にとって最大の関心事は安全校ですから、第1志望の学校だけでなく、安全校にしたい私立高校も必ず合わせて伝えましょう。公立、私立とも受験したい学校をすべて挙げて(いわゆる併願パターン)、先生の意見を聞くといよいでしょう。私は前期・後期を通しての併願作戦を先生に伝えましょう。受験したい学校名だけを伝えても、先生は「前期だけだろう」と受けとってしまう可能性があります。後期も受けるつもりなら「前期がダメなら、後期も受けます」と、はっきり伝えるようにしましょう。安全校については、前出のように入試相談が絡みます。入試相談の基準と現時点での成績をもとに先生がアドバイスしてくれるはずなので、選択に悩むようならおすすめの学校をあげてもらいましょう。その上で第1志望の学校については、自分の気持ちを強く伝えましょう。公立高校が第1志望なら願書提出は2月です、現状で合格ラインにとどいている必要は必ずしもありません。冬休みくらいまでは志望を下げずに「頑張れるだけ頑張る」くらいのほうが、実力もアップできるでしょう。その場合、「冬休み明けには最終判断をし、無理そうなら志望を下げる」などビジョンを明示して、先生に理解を求めてください。気をつけたいのは、必ず「レベルの高い方」を現

在の志望校にすることです。中学校の先生はレベルを下げる方への変更は歓迎してくれますが、レベルを上げる方(合格の可能性が下がる方)への変更は嫌がります。

「今は薬園台志望だが、成績が上がったら県船橋を受けたい」というような話では先生は納得してくれません。公立入試では問題の性格上、受験生の実力がほぼそのまま出ます。実力が足りないのに無謀な挑戦をしても、よい結果が得られることはほとんどありません。仮に奇跡が起きて合格を手にしたとしても、入学後には確実に苦労することでしょう。最終的には実力相応の学校を受験するのがベストだと思います。だからこそ、願書提出のギリギリまで目標を高く持って実力アップに努めて欲しいのです。もう一度書きますが、高校入学はゴールではなくスタートです。

多くの中学生にとって、高校受験は自分自身の意志で決める人生最初の選択でしょう。受験する高校が決まるということは、人生の第一歩を自分の足で踏み出したことになるのです。それだけの重みを噛み締めて、よくよく「考えて」「話し合っ」三者面談に臨んでください。

なお、ご希望であればトレスでも面談は実施致しますのでご連絡ください。 海野